

国際会議・公開フォーラム「文化財防災についての国際比較研究」を開催しました (2015/10/22-27)

テーマ：文化財防災 歴史資料保全

場所：神戸大学人文学研究科（兵庫県神戸市）、東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

10月22日（木）から27日（火）にかけて、神戸大学および東北大学において国際会議・公開フォーラム「文化財防災についての国際比較研究」を開催しました。

本企画は、特定プロジェクト研究（連携）「災害発生に備えた文化財所在情報の集約に向けた国際比較研究」（研究代表：天野真志，人間・社会対応研究部門）と科学研究費基盤研究S「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて」研究グループ（研究代表：奥村弘・神戸大学）との共同主催で開催いたしました。

日本各地には多様な文化財が膨大に残されており、そのことは世界的にも大きな特徴です。これらの所在を把握し、歴史的・文化的遺産として次世代に継承していくことが、地域の歴史文化に対する防災対策として重要な取り組みとなります。本企画では、国家規模で文化財防災への取り組みを進めているイタリアとの国際比較を通して、日本における文化財防災のあり方について議論しました。

22日（木）・23日（金）は神戸大学にて専門家会議を開催しました。イタリアからの講師としてイタリア国立保存修復高等研究所（ISCR）のカルロ・カカーチェ氏をお招きし、イタリア全土の多様な文化財情報を地理情報と連動させて総合的に管理し、その危険度を評価した「文化財危険地図」（Carta del Rischio）の構築とその運用についてご講演いただきました。さらに、日本側からの報告を踏まえて2日間にわたり議論をおこないました。

24日（土）は神戸大学において公開フォーラムを開催し、カカーチェ氏の講演と日本側のコメントを通して議論をおこないました。当日は80名余りの方にご参加いただき、フロアからも活発な議論がおこなわれました。

27日（火）は仙台に場を移し、災害科学国際研究所にて東日本大震災をテーマとして専門家会議を開催しました。今村文彦所長から開会の挨拶を、天野真志助教が会議の趣旨説明をおこない、佐藤大介准教授（人間・社会対応研究部門）が報告しました。東北地方における動産・不動産文化財の所在情報把握についての現状と課題・展望について、カカーチェ氏と議論をおこない、東日本大震災を経験してからの東北地方における文化財防災のあり方について議論を深めることができました。

4日間にわたる会議・フォーラムを通して、イタリアの国を挙げての防災体制には学ぶべき点が多くあることを改めて実感するとともに、日本側の報告からは日本独自の災害対策について、さまざまな可能性が見いだすことができました。今後もイタリアとの交流を通して、日本の文化財防災に向けた取り組みを進めていきたいと思っております。

文責：天野真志（人間・社会対応研究部門）

（次頁へつづく）



専門家会議（神戸）



講師のカルロ・カカーチェ氏



専門家会議（仙台）



佐藤大介准教授